

第34回 薩摩半島縦走 10月23日(金)

爽やかな秋の一日、みんな颯爽と駆け抜けました。



〈お手伝いに参加した保護者からの声〉

- ・初参加でしたが、とても楽しく、子供達の頑張っている様子を見ることができて良かったです。
- ・生徒達が礼儀正しく、お茶や補食を渡す度に「ありがとう」と言ってくれて、嬉しかったです。
- ・他の保護者との交流もできて、楽しかったです。

〈コメント〉

- ・頑張ってゴールにたどり着く子供達の姿を見ることができ、とても感動しました。厚生研修部の皆様、御協力ありがとうございました。(厚生研修部部長 柳元)
- ・子供達の頑張っている姿を間近で見ることができ、そのお手伝いができて良かったです。(厚生研修部副部長 橋爪)

各専門部活動報告

PTAレポート

平成二十七年PTA研修視察

六月二十六日に鹿児島大学で研修視察が行われました。参加者四十五名。今回は教育学部、理学部、水産学部の先生方にお話をお聞きすることができました。各部それぞれの特性が良く分かり、今後の参考になりました。その後、本校卒業生である法文学部在籍の迫さんにお話をいただきました。子供達は、大学受験時に親の接し方で気持ちが大きく変わることに、大学卒業前に就職を有利にするためにインターンシップで海外に行く学生が多いことなど、興味深いお話をしてくださいました。短い時間ではありましたが、大変有意義な時間を過ごさせていただきました。

進学部 江口紀代子



鹿児島市高等学校PTA研修会

八月八日(土)、サンエールかごしま講堂にて鹿児島市高等学校研修会が行われました。研修は「夢の実現に向けて、主体的に進路選択をさせるための保護者のあり方、学校との連携はどうあるべきか。」をテーマに既卒者二名、在校生二名、保護者二名の体験発表と、その体験発表を踏まえたフォーラムの二構成で行われました。本校からも二年生の中村さんが在校生代表として登場。進路選択の迷いや進路をめぐる親との考え方、その後のフォーラムでも登壇者の一人として、今の考え、気持ちを述べてくれました。今、まさに進路選択に向き合う子の親として、大変参考になる素晴らしいものでした。PTA会員の一人としてこのような研修会に参加できたことをとても嬉しく思うとともに、夢の実現に向けて踏み出す子供達をしっかり支えられる存在でありたいと改めて思わせてくれた研修会でした。

広報部 徳永晶子

〈進学部〉 児玉由加利

進学部は毎年、PTA研修視察を実施しています。今年度は、地元の大学を知る目的で鹿児島大学を視察し、各大学の先生による学部紹介、本校卒業生の体験談など、貴重なお話をいただきました。来年度は県外の大学を予定しています。是非ご参加ください。

〈生活部〉 内園知美

生活部は、街頭補導や生活指導に関する諸研修会に参加してまいりました。学力向上には、生活習慣と運動の関わりが大きいという実態報告があります。文武両道の甲南魂の精神を大切に健全な成長を今後も見守りたいと思います。

〈広報部〉 内海雅代

広報部では年2回、PTA新聞「PTA NEWS」を発行しています。今年度は「新・進・伸 ～新しく進み伸びていく」という年間テーマのもと、活動しました。広報の活動は大変だと思われがちですが、和気藹々と活動することができました。

〈厚生研修部〉 柳元祐里子

恒例の薩摩半島縦走の湯茶接待を中心に活動を行いました。知覧武道館と知覧テニスの森公園に分かれて補食・飲料の提供等、全員協力のもと楽しく活動することができました。

編集後記

PTA NEWS 第三十号発行にあたり、ご協力いただいた先生方、関係者の皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

大変だった高校受験を経て入学した喜びもつかの間、入学後はそれまでとは違った学習内容に戸惑う子の姿を度々見かけます。また、将来を見据えた進路選択を子どもたちも保護者も迫られます。今回の特集では本校卒業の先生方のご協力のもと座談会を開き、子どもたちの学習面へのアドバイスや、先生方が進路を決めた理由など、お話ししていただきました。

※文中の先生方の敬称は省略させていただきます。

―昔も今も宿題の量は多いんですか？―

花田 私頃は、三年間で段ボール箱が三箱〜四箱くらいになると言われていた頃で、今よりだいぶ多かったと思います。

平田 量が多いというのは感じました。けれど、やっぱりそのうち慣れるんですね。

久留主 昔は宿題も多く、しかも朝テストがありました。今の朝課外は私の頃は「テスト」。テストも不合格だったら放課後残って追試を受けることになるから、宿題とプラスαでそのテスト勉強もしないといけませんでした。それが毎日だから……。



花田 高校に入学した時は夢が三つあって、一つは薬剤師。もう一つは学校の教員。もう一つは外交官でした。結構夢はでかかったんですけど、私は、数学、英語、あと理科系統の成績が悪くて……。二年の時に世界史を教えてくださった先生がすごくいい先生で、世界史の内容はとても面白いし、教員が良いなと思ったんです。ただ福祉にも興味があったので、養護学校の教員免許も取り、今に至っています。

―スマホ等、電子機器を使用する今の子ども達をどう思いますか？

久留主 ツールとしては良いと思うんですよ。スマホや電子機器を自分の学習向上のためのツールとして活用してほしいなと思います。

―電子辞書とかはどうなんですか？

伊藤 国語は…授業中は使わせないようにします。勇 英語は使わせていらっしやる先生もいます。

―賛否両論あるんですね―

久留主 結局、紙媒体は、このページのどこらへんに載っていたという情報が、図形とか…形で頭に残るんですね。電子辞書はぱっと消える

勇 全体的にやっぱり今よりも宿題が多かったですし、負担も多かったのかなと思います。

―「教員」という職業を選択することを具体的に決めたのはいつ頃？―

伊藤 就職活動の際、一般企業の就職活動もしていたんです。でも、大学三年生の十二月に「二兎を追う者は一兎をも得ず」と悟り、教員に絞って死にものぐるいで勉強しました。本当にギリギリで決めました。国語を選んだ理由は高校生の時に教えてくださった先生方が、とても楽しい授業をしてくださったからです。私もこんな授業をしたいと思いました。その内のお一人とは今、一緒に働かせていただいています(笑)

勇 私の場合、教員になるという夢は小学校二年生の頃から変わっていないんです。小学校二年生で出会った担任がきっかけで教員を目指しました。英語を選んだ理由は素直に英語が得意だったのと、私自身がテンションが高いので、こういうテンションでやれる教科が良かったからです。

寺嶋 大学が理学部なんですけど、黙々と実験するとか、コッコツと研究するということがあまり性に合っていないなと思ったのと、やっぱり人と話したりしながら実験等行った方が自分に向いているなあと考えたからです。もちろん理科が好きだったので理科の教員になりました。

久留主 実は教員以外の職業として考えていたのは、ゲームプログラマー。教員になることも考えながらだったけれど、ゲームプログラマーの夢も捨てきれず、教育学部じゃなくて理学部に行ったから、恐らくそういうものがないような……。

―スマホで解答を写真に撮って送ってもらい、ノートに写す…なんてこともしているようなんですが―

久留主 各教科、得意な生徒の答えを写すということですよ。『間違ってるな』なんですけどね……。授業中当てられたとき、間違った答えをいうことに恥ずかしさを感じる生徒が多い！それがすごくもったいないと感じてしまうんですね。スマホの件に関しても、簡単に正解だけ求めてとりあえず結果が得られればよし、という生徒が多いから、そこから踏み込んで考える機会を失ってしまっている気がします。もったいないなあ……。やはりツールは使いようですよ。

―最後に苦手教科克服のためのアドバイスをお願いします―

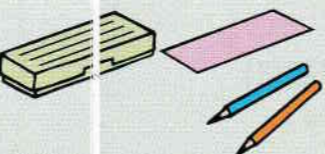
花田 社会の勉強については、まずは授業をしっかり聞いて、少しずついいから繰り返し何度でもやる、というのが多分社会科を好きになるチャンスなのかなと思います。

寺嶋 甲南生は、「授業で何とか理解しようとは思ってないな」という場面がよくあります。授業で何とかするんだという意識を持ってほしい。

勇 私が言えることは三点あって、まず一つ目は単語と文法を確実に一年生からやることです。二つ目は英語圏に興味を持ってほしい、海外に行きたいと思っしてほしいということ。三つ目は、英語は英語を通して何かを学ぶ教科なので、まず何事にも興味を持つこと、そうしたら英語が好きになると思います。

んです。理学部だったら情報系のプログラミング等の勉強をしながら、自分に向いているのはどちらなのか見極められると思って……。見極めた結果、教員になりました。消去法で残ったのが教員というわけではなく人に教えるのが好きだったという事、何よりも人と接するのが好きだったから。これも高校で生徒会活動をして得られたことの副産物だったのかなと思います。

平田 まず学校の先生は大嫌いでした。「絶対先生達は日頃のストレスを俺たちで発散してるんだ」と思っていました(笑)。進路選択の際、スポーツの指導とかインストラクターの仕事に興味があったので、体育・スポーツ系に行こうと思いきその方面の大学に入り、周りに合わせて教員免許を取り……。不思議なことに今に至ります(笑)。



伊藤 古文も漢文も、現代語とは文法も違えば語順も違います。苦手な人はやはりリズムで覚えるのが一番じゃないかと……。個人的には一日十分(古文五分、漢文五分)の音読を推奨しています。現代文に関してはまず本を読むことですかね……。文章を読む機会が多い生徒がやはり伸びると思います。

久留主 まず苦手な生徒たちに言いたいことは「見栄をはるな」です。まずは基本に戻る。自分が出来なくなったところまで思い切っさかのぼって勉強し直す。どの教科でもそうだけれども、反復して繰り返し身につけるといふ事を嫌がっているうちは数学は身につかないと思います。

感想

教員という仕事に対し、熱意をもって就かれています。このことをひしひしと感じ、とても感動しました。また、先生方も学生時代に子ども達と同じように宿題などで苦労していたことを知り、親近感がわきました。スマホ等の電子機器も上手く利用できれば役に立つという意見にほっとすると同時に、今後子ども達と一緒に使い方を考えていかなければいけないと痛感しました。

新しいツール(スマホ等)を上手に利用し、

子が目標に向かって一生懸命進進し、

伸び伸びと成長していけるように見守る親でいたい

そう感じる座談会となりました。